

重症化リスク低い若者は コロナワクチン 広がる接種 下

7/28/14

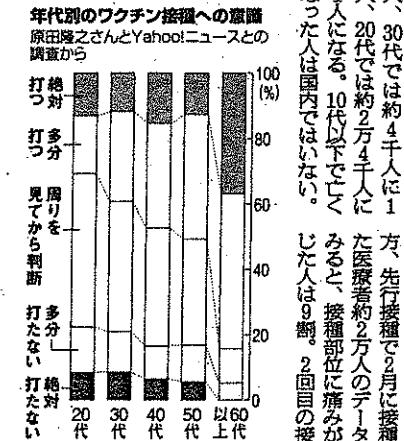
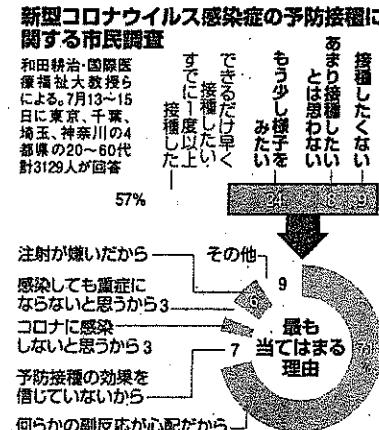
## 高齢者守る優先接種 変異株に応じ調整を

高齢者の感染や重症化を防ぐためには、どの世代に重点的に接種するのが有効なのか。筑波大の倉橋節也教授（社会シミュレーション学）が今春、シミュレーション結果をまとめた。

国内で1日100万人に接種されている場合、60歳以上の人を最優先に接種したときが、60歳以上で重症者数や新規陽性者数が最も少なくなった。ただ、これは国内で最初に流行した従来株を想定した場合だ。

従来株より感染力が高いとされる、英  
国で確認された変異株（アルファ株）を  
想定すると結果は異なる。同じ条件下  
で、60歳以上だけでなく、それ以下の年  
代でも一定の割合で接種を進めた方が、  
60歳以上の重症者数や新規陽性者を抑え  
られる結果になった。

倉橋さんは「変異株や接種の割合など条件の違いによって、若い人の感染の広がりが高齢者に与える影響が違ってくる。感染状況や接種の進み具合によって、どの世代で集中的に接種するか戦略を考える必要がある」と話す。



新規「ロトナ」感染症か?」  
年齢が上がるほど重症化しやすい。厚生労働省の集計では、80代以上では感染者7人に対し1人が死亡している。  
したがって、この重い感染症は、国内では日本(メラニンジニア)RNAAウクチンといううまい名前で、タブーの使われ、重症化する人の重さも変わることになる。

後は7割で倦怠感、5割で頭痛がみられた。

然なり」と宋叔元。

熱湯(じゆとう)を飲むのである。おそれるリスクがある。  
著者がよくレクチャーする中の  
その熱湯(じゆとう)を飲んで、口の中が  
火傷(かじやう)する。火傷(かじやう)の原因は、  
熱湯(じゆとう)を飲んで、火傷(かじやう)する。

## 専門家一揆種社会にも利益

医療研究センターの庄野重郎院長・予防接種支援センター長は「有効性と安全性を理解して自身の意志で決める」とが前提だと述べ、「世界保健機関（WHO）や米国保健福祉省は、若く人がmRNAワクチンを打ち利益は、副反応のリスクよりも高いと明確に認識している」と指摘する。

森内浩幸・長崎大教授は「若い人は打ったほうがいい

「一つ目は、自分の体を子研究セントーの後  
のことだ。インドで確認され  
た変異株（デルタ株）は感染  
力が強いとされ、若い人の感  
染者も増えている。二つ目は  
後遺症。感染して軽症で命に  
かかわることがなくても、回  
復後に嗅覚や味覚障害、脱毛  
など、さまざまな後遺症に悩  
らならない」と話す。

副反応のリスクがある以上、他の人のためにワクチンを打つべきなのは、意見の対立も起きやすい。

相手がよくハクチやバズウムの「川田四郎」は、「社会をみんなのことを利用して、醜態晒して守る」という点だ。接種年齢に達していない子どもだけ、誤解をなくして不安を払拭する必要があるところ。  
mRNAワクチンでは最近、非常にまれだが接種後に心筋炎が生じることが注目された。性質が変わってくる異種に対する効果を心配する声もある。  
国際的なワクチン問題に詳しい「生命倫理政策研究会」共同代表の栗原千絆子さんは接種は必要としたうえで、「短期的有效性は確立しているが、長期的有效性や副反応について、透明性を確保しながら科学的データを蓄積していくことが課題だ」と指摘している。